

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
富山情報ビジネス専門学校		4/1/1976		浦城 尚武		〒 939-0341 (住所) 富山県射水市三ヶ576 (電話) 0766-55-1420		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人浦山学園		12/26/1966		浦山 哲郎		〒 939-0341 (住所) 富山県射水市三ヶ613 (電話) 0766-55-3937		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
商業実務	商業実務専門課程		インターナショナルビジネス		平成28(2016)年度	-	令和 6(2024)年度	
学科の目的	1 高度な日本語能力を有する人材の養成 2 実践的なマーケティング知識を有する人材の養成 3 企業で即戦力となる人材の養成							
学科の特徴（取得可能な資格、中退率 等）	1 日本語能力試験N1相当の日本語力 2 マーケティングに関する知識を基に、社会課題解決につながるビジネスモデルをつくることできる 3 サービス業において必要とされるビジネスマナー、接遇に関する基本的な知識、技術を習得できる 4 基礎的なPC操作及び、簿記・会計の技能の習得ができる 5 ビジネスシーンでの基礎的なコミュニケーションができる							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			65 単位	8 単位	56 単位	1 単位	0 単位	0 単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生生数（生徒実員の内数）(B)		留学生割合(B/A)	中退率		
40 人	51 人		51 人		1 %	0 %		
就職等の状況	■卒業者数 (C)		41		人			
	：							
	■就職希望者数 (D)		41		人			
	：							
	■就職者数 (E)		41		人			
	：							
	■地元就職者数 (F)		16		人			
	：							
	■就職率 (E/D)		100		%			
	■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)		61		%			
就職等の状況	■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)		100		%			
	■進学者数		0		人			
	■その他							
	全員就業中							
	(令和 7 年度卒業者に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)							
第三者による学校評価	■主な就職先、業界等							
	(令和7年度卒業生)							
当該学科のホームページURL	https://www.bit.urayama.ac.jp/subject-course/itn-ck							
企業等と連携した実習等の実施状況（A、Bいずれかに記入）	(A：単位時間による算定)							
	総授業時数					0 単位時間		
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					― 単位時間		
	うち企業等と連携した演習の授業時数					― 単位時間		
	うち必修授業時数					― 単位時間		
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					― 単位時間		
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					― 単位時間		
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					― 単位時間		
	(B：単位数による算定)							
	総単位数					65 単位		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数					1 単位			
うち企業等と連携した演習の単位数					21 単位			
うち必修単位数					47 単位			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数					1 単位			
うち企業等と連携した必修の演習の単位数					14 単位			
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)					1 単位			
教員の属性（専任教員について記入）	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者（専修学校設置基準第41条第1項第1号）					0 人		
	② 学士の学位を有する者等（専修学校設置基準第41条第1項第2号）					2 人		
	③ 高等学校教諭等経験者（専修学校設置基準第41条第1項第3号）					0 人		
	④ 修士の学位又は専門職学位（専修学校設置基準第41条第1項第4号）					0 人		
	⑤ その他（専修学校設置基準第41条第1項第5号）					0 人		
	計					2 人		
	上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね 5 年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数					1 人		

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（１）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針
委員からいただいた意見をもとに、学科間にて現状と課題を洗い出し、次年度カリキュラム策定において検討する。検討した内容を校長・学科長とともに再度検討し、より良い教育プログラムとなるよう進めている。また、企業アンケートでの意見や実習、または企業連携している企業担当者からの意見・要望を踏まえ、職業現場で必要となる技能・スキルを学ぶことができる授業体系を構築している。

（２）教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
教育課程編成委員会は校長、その他役職者(課長以上)における会議下に置く。(運営会議)「カリキュラム作成マニュアル」において、「教育課程編成委員会での検討内容が議論されていること」と明記されている。「カリキュラム策定フロー」において、カリキュラムの振り返りに「振り返りには教育課程編成委員会での検討結果を反映させる」と明記され、カリキュラム策定開始と完成には、「教育課程編成委員会での検討結果を実践的かつ専門的なカリキュラム作成のための検討材料とする」と明記されている。「カリキュラム運用フロー」において、「＜教育課程編成委員会開催＞ 確認・実施事項」として明記されている。カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項、各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項、教科書・教材の選定に関する事項、その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項を審議し学科に提案する。これらの意見は学科間において常勤、非常勤とヒアリングをしたのち、運営会議(学内役職者)にて提案する。

（３）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
五十嵐 篤	株式会社ジェック経営コンサルタント 取締役第4事業部長	令和7年5月1日～令和9年4月30日(2年)	③
中島 勝喜	株式会社ホテル黒部 代表取締役社長	令和7年5月1日～令和9年4月30日(2年)	①
折田 真一	富山情報ビジネス専門学校 日本語学科長	令和7年5月1日～令和9年4月30日(2年)	—
松倉 基晴	富山情報ビジネス専門学校 インタナショナルビジネス学科教員	令和7年5月1日～令和9年4月30日(2年)	—
土井 衿奈	富山情報ビジネス専門学校 インタナショナルビジネス学科教員	令和7年5月1日～令和9年4月30日(2年)	①

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。）

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（１企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（４）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）

年2回（8月、2月）

（開催日時（実績））

第1回 令和7年9月25日（木）15:00～16:30

第2回 令和8年3月25日（水）14:00～15:30

（５）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- ・両委員から、インターンシップ実施について、富山県インターンシップ協議会(平田氏)へ相談してみると良い、との提案
- ・在学中の日本語学習の中で、『漢字を正確に書く』ということにもっと慣れると良い。漢字の読み方やフリガナ表記を正確に行えないと、スマホ検索もままならない。漢字の書き順をしっかりとマスターすることで、書くための所要時間が短縮できる。⇒どの授業の中で、漢字練習の時間を確保するか、要検討。
- ・技人国ビザと特定技能ビザの区別の理解⇒特定技能の場合の試験対策を十分に行う。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（１）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

職業現場において必要とされるスキルの習得という方針に基づき、最新の業界動向を反映したカリキュラムを構築し、企業と連携したプロジェクト型授業や現場実習を実施している。これにより、学生が実務的な知識と技術を体験的に学び、卒業後に即戦力として活躍できる力を養成している。また、定期的に業界関係者を招き、講演やアドバイスを受けることで、教育内容の質を高めていく。

（２）実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

当該実習および演習授業において、授業概要立案、実施、評価に至るまで連携先と相談し 実施している。

年度開始前に、契約書を取り交わし、授業概要を作成確認し、実施後の成績評価まで双方の確認をおこなっている

（３）具体的な連携の例※科目数については代表的な５科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
インターンシップⅡ A	3. 【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	簿記を通して一般職および会計職に必要な基礎的知識を習得する。	・ホテル黒部 ・黒部宇奈月温泉「延楽」 ・黒部宇奈月温泉「桃源」 ・湯神子温泉 ・うみあかり ・かね七 ・ホテルルートイン ・スーパーホテル
簿記会計Ⅱ A	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	一般職および会計職に必要な知識をさらに充実させ、会計的観点から管理業務についての理解を深める。	税理士法人 田中会計
日本社会の理解Ⅱ A、Ⅱ B	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	宿泊・飲食・物販等のサービス業におけるマネジメントの基礎（考え方・専門用語等）について学ぶ。	浄土真宗本願寺派（西本願寺）明覚
PC文書作成Ⅰ A、他	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	地域の企業や団体と連携してSDGsの課題を見つけ、解決の糸口を探す。	（株）クレッセント
インターンシップⅡ A	3. 【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	自分自身で目標を立て、目標実現に向け取り組むことを意識していく。また、クラスの一員としての意識を持ち、関与できるよう様々な取り組みを行っていく。	・ホテル黒部 ・黒部宇奈月温泉「延楽」 ・黒部宇奈月温泉「桃源」 ・湯神子温泉 ・うみあかり ・かね七 ・ホテルルートイン ・スーパーホテル

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 「富山情報ビジネス専門学校教職員研修規程」に基づき、専門学校は、教職員に対する研修の必要性を理解するとともに、研修計画を策定し、その研修計画に基づく研修を実施することにより、教職員に研修を受ける機会を与えなければならない。と明記されている。また、研修内容においては専攻分野における実務に関する研修と指導力向上のための研修等において参加するよう促している。		
(2) 研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名：	令和7年度コンプライアンス研修会	連携企業等： 全国経理教育協会
期間：	11月27日(木)	対象： 専門学校検定担当者
内容	コンプライアンスの重要性に関する認識を高め、遵守すべき関係規則等に関する理解を深める	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名：	ホテル旅館における外国人インターン学生の現状と課題	連携企業等： 株式会社うみあかり
期間：	2026年08月23日～24日	対象： 専門学校教員
内容	タイ・インターン学生の受け入れに伴う諸課題の検討	
(3) 研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名：	ChatGPT完全解説セミナー	連携企業等： 株式会社AIスキルアカデミー
期間：	46209	対象： 一般社会人
内容	様々なビジネスシーンにおけるAIの利活用方法	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名：	対人スキル向上研修	連携企業等： リクルートマネジメントソリューションズ
期間：	2026年08月07日(金)	対象： 人事・人材開発スタッフ
内容	多様な人々と効果的に協働し、新たな価値を創造していく能力育成	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

富山情報ビジネス専門学校により実践的な職業教育の質を確保するため、自己点検評価報告書に基づき、教育活動の観察や意見交換をおこなう。当委員会にて得られた知見は教職員全員が参加する会議にて共有され、早急に改善が必要と学校長が認めた場合はプロジェクトチームを立ち上げ、迅速な対応を目指す。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	基準 1 教育理念・目的・人材育成像 1-1-1 教育理念・目的・人材育成像は定められているか 1-1-2 学校における職業教育の特色は何か 1-1-3 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか
(2) 学校運営	基準 2 学校運営 2-1-1 目的等に沿った運営方針が策定されているか 2-1-2 事業計画に沿った運営方針が策定されているか 2-1-3 運営組織や意思決定機能は規則等において明確にされているか 2-1-4 人事・給与に関する制度は整備されているか 2-1-5 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか 2-1-6 情報システム化等による業務の効率化が図れているか
(3) 教育活動	基準 3 教育活動 3-1-1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか 3-1-2 学科等のカリキュラムは体系的に構成されているか 3-1-3 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-1-4 資格試験の指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか 3-1-5 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
(4) 学修成果	基準 4 学修成果 4-1-1 就職率の向上が図られているか 4-1-2 資格取得率の向上が図られているか 4-1-3 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5) 学生支援	基準 5 学生支援 5-1-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか 5-1-2 学生相談に関する体制は整備されているか(中途退学含む) 5-1-3 学生の生活環境への支援は行われているか 5-1-4 保護者と適切に連携しているか 5-1-5 卒業生への支援体制はあるか
(6) 教育環境	基準 6 教育環境 6-1-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備しているか 6-1-2 学内外の実習施設、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか 6-1-3 防災に対する体制は整備しているか
(7) 学生の受入れ募集	基準 7 学生募集 7-1-1 学生募集は適正に行われているか 7-1-2 学生募集において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか 7-1-3 学生納付金は妥当なものになっているか
(8) 財務	基準 8 財務 8-1-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているか 8-1-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものになっているか 8-1-3 会計監査が適正に行われているか 8-1-4 財務情報公開の体制整備はできているか

(9) 法令等の遵守	基準 9 法令遵守 9-1-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-1-2 個人情報に関しその保護のための対策が執られているか 9-1-3 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-1-4 自己評価結果を公表しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	基準 10 社会貢献・地域貢献 10-1-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 10-1-2 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか
(11) 国際交流	

※ (10) 及び (11) については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況
学校関係者評価委員会を設置し得られた評価結果や委員の知見についてはその内容を全教職員で共有し、学校HPの情報公開にも掲載している。その後、カリキュラム策定方針を検討する際に判断材料として活用し、次年度に向けた取り組みをより一層高度且つ外部意見を取り入れた内容にしている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿			
名 前	所 属	任期	種別
奈呉江 教典	高岡龍谷高等学校 元校長	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	教育機関
堀田 喜久男	富山情報ビジネス専門学校同窓会 会長	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	卒業生
金子 雄一	富山情報ビジネス専門学校後援会 会長	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	保護者
細川 雅弘	(一社)富山県情報産業協会 専務理事・事務局長	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	有識者
中野 健司	公益社団法人 富山県建築士会 元会長	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	有識者
坂井 彦就	富山県ホテル・旅館生活衛生同業組合 理事長	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	有識者
前田 伸明	富山県済生会富山病院 事務次長	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	有識者
中島 勝喜	株式会社ホテル黒部 代表取締役	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	有識者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ・) 広報誌等の刊行物・その他())
URL : [https://www.bit.urayama.ac.jp/data/6_information/information/information_files/C_evaluation.p](https://www.bit.urayama.ac.jp/data/6_information/information/information_files/C_evaluation.pdf)
公表時期 : 5/1/2025

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業との関係づくりにおいては企画推進部(就職関連部署)にて進めている。当学園の教育の理想に掲げているように「地学一体による地域課題解決拠点としての教育研究機関」を目指している。教務においても各分野の企業と連携を深め、地域の課題に対して積極的に考え、行動する人材育成を方針としている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	基準 1 教育理念・目的・人材育成像 1-1-1 教育理念・目的・人材育成像は定められているか 1-1-2 学校における職業教育の特色は何か 1-1-3 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか
(2) 各学科等の教育	基準 2 学校運営 2-1-1 目的等に沿った運営方針が策定されているか 2-1-2 事業計画に沿った運営方針が策定されているか 2-1-3 運営組織や意思決定機能は規則等において明確にされているか 2-1-4 人事・給与に関する制度は整備されているか 2-1-5 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか 2-1-6 情報システム化等による業務の効率化が図れているか
(3) 教職員	基準 3 教育活動 3-1-1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか 3-1-2 学科等のカリキュラムは体系的に構成されているか 3-1-3 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-1-4 資格試験の指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか 3-1-5 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
(4) キャリア教育・実践的職業教育	基準 4 学修成果 4-1-1 就職率の向上が図られているか 4-1-2 資格取得率の向上が図られているか 4-1-3 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5) 様々な教育活動・教育環境	基準 6 教育環境 6-1-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備しているか 6-1-2 学内外の実習施設、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか 6-1-3 防災に対する体制は整備しているか
(6) 学生の生活支援	基準 5 学生支援 5-1-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか 5-1-2 学生相談に関する体制は整備されているか(中途退学含む) 5-1-3 学生の生活環境への支援は行われているか 5-1-4 保護者と適切に連携しているか 5-1-5 卒業生への支援体制はあるか
(7) 学生納付金・修学支援	基準 7 学生募集 7-1-1 学生募集は適正に行われているか 7-1-2 学生募集において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか 7-1-3 学生納付金は妥当なものになっているか
(8) 学校の財務	基準 8 財務 8-1-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているか 8-1-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものになっているか 8-1-3 会計監査が適正に行われているか 8-1-4 財務情報公開の体制整備はできているか

(9) 学校評価	基準 9 法令遵守 9-1-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-1-2 個人情報に関しその保護のための対策が執られているか 9-1-3 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-1-4 自己評価結果を公表しているか
(1 0) 国際連携の状況	-
(1 1) その他	基準 11 社会貢献・地域貢献 11-1-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 11-1-2 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか

※ (1 0) 及び (1 1) については任意記載。

(3) 情報提供方法 (ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) URL : https://www.bit.urayama.ac.jp/data/6_information/information/2_self_2026.pdf 公表時期 : 5/1/2026
--

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 インターナショナルビジネス)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			JLPTⅠA	レベル別にクラス分けをし、漢字、語彙を身に着ける。新しい文法項目を導入し、意味と使い方を覚える。Google Formで苦手な項目を特定し、知識の定着を図る。読解では情報検索と短文に注力する。 目標：入学時N4→N3合格。入学時N3→N2の基礎をつくる。	1・前	60	2		○		○			○	
2	○			JLPTⅠB	レベル別にクラス分けをし、漢字、語彙を身に着ける。新しい文法項目を導入し、意味と使い方を覚える。Google Formで苦手な項目を特定し、知識の定着を図る。読解では情報検索と短文練習を継続しつつ、中長文に挑戦する。目標：N3保持者→N2合格に向け基礎を固める。	1・後	60	2		○		○			○	
3			○	JLPTⅡA	レベル別にクラス分けをし、漢字、語彙を身に着ける。新しい文法項目を導入し、意味と使い方を覚える。Google Formで苦手な項目を特定し、知識の定着を図る。読解では情報検索と短文に注力する。 目標：N2合格、PJC C-以上	2・前	60	2		○		○			○	
4			○	JLPTⅡB	レベル別にクラス分けをし、漢字、語彙を身に着ける。新しい文法項目を導入し、意味と使い方を覚える。Google Formで苦手な項目を特定し、知識の定着を図る。読解では情報検索と短文練習を継続しつつ、中長文に挑戦する。 目標：N2合格、PJC C-以上	2・後	60	2		○		○			○	
5	○			ビジネス日本語ⅠA	ビジネス・リタラシーの基本についての知識・理解を深め、読む、聞く、書く、話すの4技能をバランスよく演習しながら、ビジネス日本語の基礎力構築を図る。	1・前	15	1	○			○			○	
6	○			ビジネス日本語ⅠB	ⅠAで学んだビジネス・リタラシーの基本についての知識・理解をさらに深め、日本語運用能力（4技能）の充実を図る。	1・後	15	1	○			○			○	
7	○			ビジネス日本語ⅡA	ⅠA、ⅠBで学んだビジネス・リタラシーの知識・理解をもとに、模擬試験問題や演習問題を通してビジネス能力検定受験に向けての準備を進める。	2・前	15	1	○			○			○	
8	○			ビジネス日本語ⅡB	ⅠA～ⅡAで学んだ知識と理解をもとに、ビジネス能力検定受験の点数向上に向けて演習問題を継続する。	2・後	15	1	○			○			○	
9	○			日本社会の理解ⅠA	富山と北陸の特色を中心に日本で生活を営んでいく上で必要となる日本事情の知識を身に付ける。	1・前	60	2		○		○		○		
10	○			日本社会の理解ⅠB	日本全国の特色を中心に日本で生活を営んでいく上で必要となる日本事情の知識を身に付ける。	1・後	60	2		○		○		○		
11	○			日本社会の理解ⅡA	日本の歴史や文化の変遷（縄文～江戸）を中心に日本で生活を営んでいく上で必要となる日本事情の知識を身に付ける。	2・前	60	2		○		○		○		

12	○		日本社会の理解ⅡB	日本の歴史や文化の変遷（明治～令和）を中心に日本で生活を営んでいく上で必要となる日本事情の知識を身に付ける。	2・後	60	2		○		○		○		
13	○		日本企業の理解ⅠA	就職活動に即して、日本の企業文化や企業で求められるリテラシーについての理解を深める	1・後	60	2		○		○		○		
14	○		日本企業の理解ⅡA	就職活動に即して、日本の企業文化や企業で求められるリテラシーについての理解をさらに深める	2・前	60	2		○		○		○		
15	○		ビジネス英会話ⅠA	聴解・読解・ボキャビル・文法を中心とした演習およびRecitation（発表）を通して、英語によるコミュニケーションの基礎力（聴解・読解）を養成する。期中と期末にAchievement Test による Performance測定を行う。	1・前	60	2		○		○			○	
16	○		ビジネス英会話ⅠB	聴解・読解・ボキャビル・文法を中心とした演習およびRecitation（発表）を通して、英語によるコミュニケーションの基礎力（聴解・読解）の充実をはかる。基礎クラス期末目標（L/R）：TOEIC Bridge120点、TOEIC310点。応用クラス期末目標（L/R）：TOEIC Bridge150点、TOEIC470点。	1・後	60	2		○		○			○	
17		○	マーケティング概論ⅠA	期首プレースメント・テストによる2レベル編成とし、模擬試験問題の徹底演習を通して、英語によるコミュニケーションの応用力（聴解・読解・発話）を養成する。期中と期末にAchievement Test による Performance測定を行う。	2・前	60	2		○		○			○	
18		○	マーケティング概論ⅠB	個々の学生に合わせて、以下の2レベル編成とし、模擬試験問題の徹底演習とPresentationを通して、英語によるコミュニケーション応用力（聴解・読解・発話）の充実をはかる。基礎クラス期末目標（L/R）：TOEIC Bridge140点、TOEIC400点。応用クラス期末目標（L/R）：TOEIC Bridge170点、TOEIC700点。	2・後	60	2		○		○			○	
19	○		サービス接遇ⅠA	市場調査や商品開発などマーケティングに関する基本的な考え方や知識を習得する。ケース・スタディの活用や、基礎用語の確認テストを行うことで、より理解を深めマーケティングに対する関心を高める。	1・前	30	2	○			○			○	
20	○		サービス接遇ⅠB	実際のビジネスケースを使用し、簡単なレポート課題やクイズを行うことで、マーケティング理論の実践方法・活用方法などを学ぶ。また、授業は講義形式ではあるが、グループワークを取り入れ、課題の分析や解決方法の理解を深める。	1・後	30	2	○			○			○	
21	○		サービス接遇ⅡA	ペアやグループによるワーク演習を織り交ぜながら、ビジネスマナーおよびサービス接遇についての基本的な知識と理解を深める。	1・前	30	1		○		○			○	
22	○		サービス接遇ⅡB	ペアやグループによるワーク演習を織り交ぜながら、ビジネスマナーおよびサービス接遇についての基礎的な知識と理解を深める。	1・後	30	1		○		○			○	
23	○		PC文書作成ⅠA	サービス接遇検定3級の取得に向け問題演習を行いながら、知識の定着を図る。	2・前	30	1		○		○			○	
24	○		PC文書作成ⅠB	プレゼンテーションを重視した演習を織り交ぜながら、ビジネスマナーおよびサービス接遇の実践的スキルを修得し、サービスの現場で求められるより高度な知識とスキルを習得する。	2・後	30	1		○		○			○	

25	○		PCデータ活用ⅡA	一般的なワープロソフトである「Word」を使用し、文字入力や基本的な文書作成を学ぶ。頻出用語の確認を通し、日本語版Wordの理解を深める。また、制限時間を設けたタイピングテストを行うことで、日本語の文字入力を素早く性格にできるレベルまで引き上げる。	1・前	30	1		○		○		○			
26	○		PCデータ活用ⅡB	「Word」の応用的な操作を学ぶ。画像や図形をはじめとするグラフィック要素の使用や、複合的な操作を身に付ける。タイピングのテストやゲーム、様々な文書の作成を繰り返し行うことで、全経文書処理検定（ワープロ）3級に合格できるレベルまで引き上げる。	1・後	30	1		○		○		○			
27	○		PCプレゼンテーションⅡA	企業で広く使用されている「Excel」を使用し、表の作成、データ入力、関数について学ぶ。全経文書処理検定（表計算）3級の出題ポイントをおさえた演習問題を行う。	2・前	30	1		○		○		○			
28	○		PCプレゼンテーションⅡB	ⅡAで学習した内容の定着を図るため、「Excel」を目的に応じて使う練習を行い、実践力を高める。	2・後	30	1		○		○		○			
29	○		簿記・会計ⅠA	パワーポイントを用いた実践的プレゼンテーション技法の基礎を習得する。	2・前	30	1		○		○		○			
30	○		簿記・会計ⅠB	パワーポイントを用いた実践的プレゼンテーション技法の基礎を習得し、テーマに沿って効果的に発表を行う。	2・後	30	1		○		○		○			
31	○		サービスマネジメントⅡA	簿記を通して一般職および会計職に必要な基礎的知識を習得する。	1・前	60	2		○		○				○	
32	○		サービスマネジメントⅡB	一般職および会計職に必要な知識をさらに充実させ、会計的観点から管理業務についての理解を深める。	1・後	60	2		○		○				○	
33	○		インターンシップⅡA	宿泊・飲食・物販等のサービス業におけるマネジメントの基礎（考え方・専門用語等）について学ぶ。	2・前	60	2		○		○				○	
34	○		地域で実践するSDGsⅠA	宿泊・飲食・物販等のサービス業における実践的マネジメントについて学ぶ。	2・後	60	2		○		○			##		○
35	○		地域で実践するSDGsⅡA	企業での実務研修を通して、これまで学んだビジネス日本語・ビジネスマナー・サービス接遇等の知識・技術を現場実践するとともに、業界・企業・職種についての理解を深め、将来の就職に備える。	2・前	45	1			○			○	○		○
36		○	地域で実践するSDGsⅡB	地域の企業や団体と連携してSDGsの課題を見つけ、解決の糸口を探す。	1・後	30	1		○		○		○			○
37		○	就職支援ⅠA	ⅠAで見つけた課題を掘り下げ、海外の人と日本人の視点の双方で地域の課題の解決に取り組む。	2・前	30	1		○		○		○			○
38		○	就職支援ⅠB	ⅠA、ⅡAで取り組んだ内容の総まとめ。スライドを用いて、連携してきた地域、企業の担当者にプレゼンテーションを行う。	2・後	30	1		○		○		○			○
41		○	就職支援ⅡA	日本企業への就職に向けて必要なことを学び、面接対策、筆記試験対策を行い、就職活動につなげる。必要に応じて、特定技能試験やJFT対策を行う。	2・前	30	1		○		○		○			

42			○ 就職支援ⅡB	日本企業への就職に向けて必要なことを学び、面接対策、筆記試験対策を行い、就職活動につなげる。 必要に応じて、特定技能試験やJFT対策を行う。	2・後	30	1		○		○		○		
43			○ 表現力ⅠA	コミュニケーション授業や演劇を学び、自己表現力や社会性を身に付ける。	1・前	30	1		○		○		○		
44			○ 総合演習ⅠA	学内外のイベントや地域連携活動を通し、非認知能力や日本における社会人としての素養を養う。	1・前	30	1		○		○		○		
45			○ 総合演習ⅡA	学内外のイベントや地域連携活動を通し、非認知能力や日本における社会人としての素養を養う。	2・前	30	1		○		○		○		
合計					○○ 科目	○○ 単位（単位時間）									

卒業要件及び履修方法							授業期間等	
卒業要件：○○○○○							1 学年の学期区分	○ 期
履修方法：○○○○○							1 学期の授業期間	○ 週

- （留意事項）
- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
 - 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。